

ポリファーマシーとプレアボイド

介護支援委員会 林 成昭



ポリファーマシーの定義とガイドライン

- 「poly(複数)」+「pharmacy(調剤)」



- 「高齢者の医薬品適正使用の指針」

2019年5月



ポリファーマシーが起きてしまう背景



pixta.jp - 49413545

- 処方カスケード
- 国民皆保険制度



ポリファーマシーの問題点



- 有害事象の発生



ポリファーマシーの解決と対策

より安全に、安心して
川崎市薬剤師会ではオリジナルのおくす



おくすり健康手帳

KAWASAKI PHARMACEUTICAL ASSOCIATION

medication pro
usable at any medical insti

お名前

年 月 日 生 A・B・O・AB

記入開始日 年 月



在宅医療でポリファーマシーは解決できる

かわやく
訪問可能薬局検索



エリア・項目・キーワードで検索できます。

《エリア》

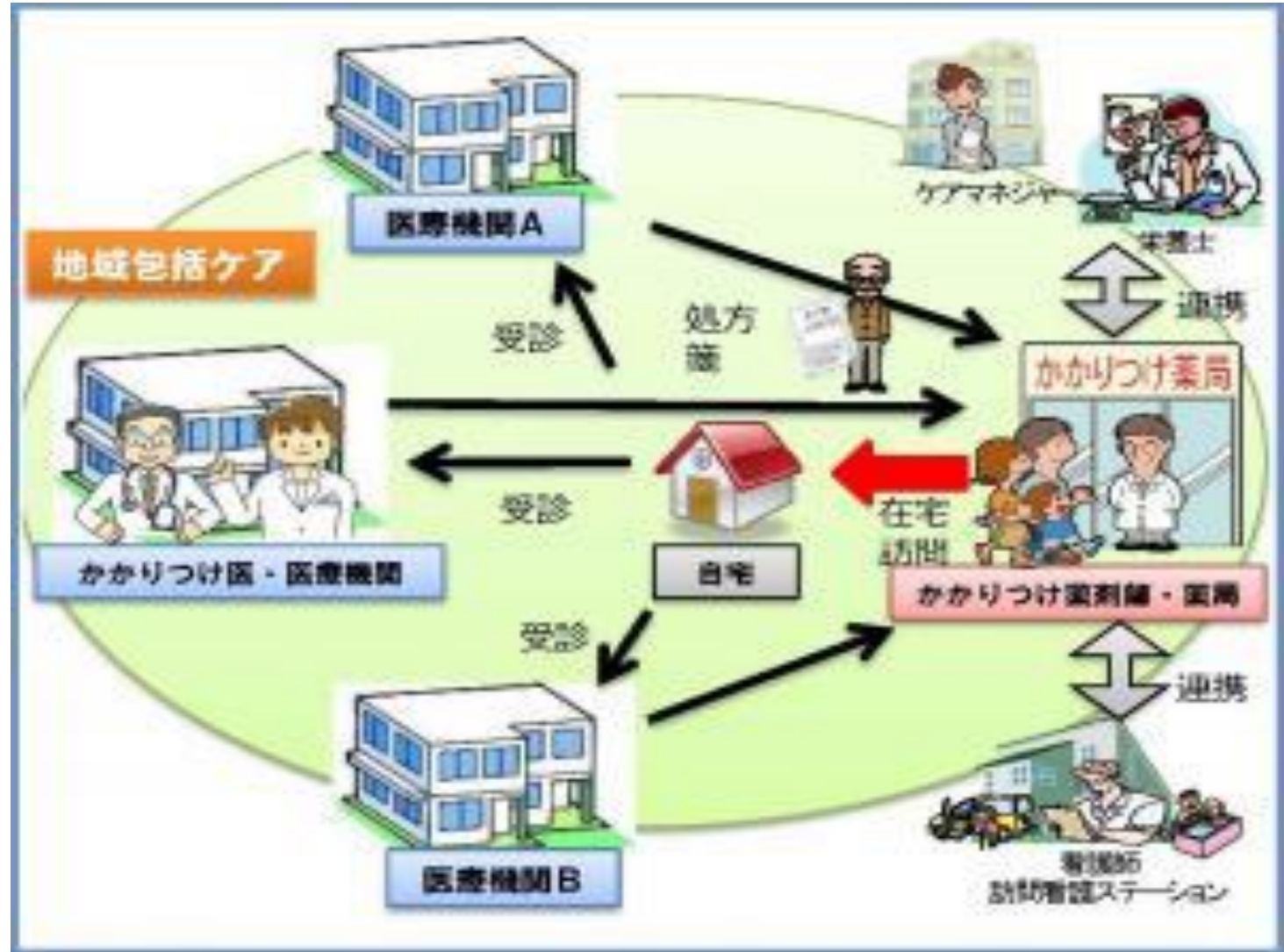
川崎区 幸区 中原区 高津区 宮前区 多摩区 麻生区

《項目》

- 1** お薬に関する相談
- 2** 薬剤の整理・配送
- 3** 訪問薬剤管理指導・副作用チェック
- 4** 医療用麻薬の取扱い
- 5** 中心静脈栄養点滴の調剤・配達
- 6** 注射針の回収、残薬処理
- 7** 緊急時の営業時間外対応



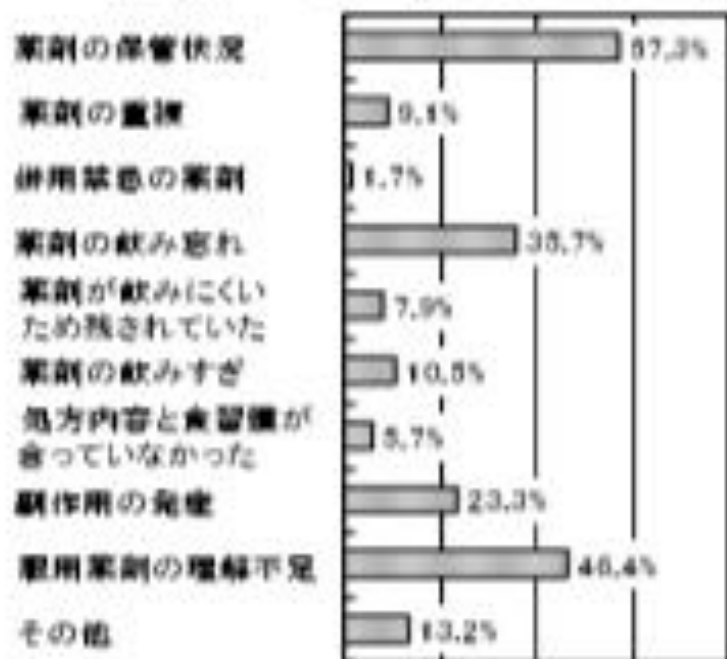
適切な投薬設計を



在宅医療への薬剤師の関与とその意義

在宅患者訪問薬剤管理指導
又は居宅療養管理指導の開始時に
発見された薬剤管理上の問題点

(N=812) 0% 20% 40% 60% 80%



在宅患者訪問薬剤管理指導
又は居宅療養管理指導の取り組みの効果

0% 20% 40% 60% 80% 100%



(参考)

潜在的な飲み忘れ等の年間薬剤費の粗推計
=約500億円

在宅患者訪問薬剤管理指導等により改善される
飲み残し薬剤費の粗推計
=約400億円

出典)平成19年度老人保健事業推進費等補助金「後期高齢者の服薬における問題と薬剤師の在宅患者訪問薬剤管理指導
ならびに居宅療養管理指導の効果に関する調査研究」

残薬の確認と整理の実例

長野県薬剤師会 事例



患者Aさん(女性)

複数科を受診。多剤服用。訪問介護員は入っているが、薬は自己管理にて整理がつかない状態。

A病院(心療内科) 処方薬 7種類

B診療所(内科) 処方薬 4種類



在宅訪問時に驚くほどの飲み残しが出てくることは多い。
残薬整理は訪問初期段階の最重要課題。

【対応】

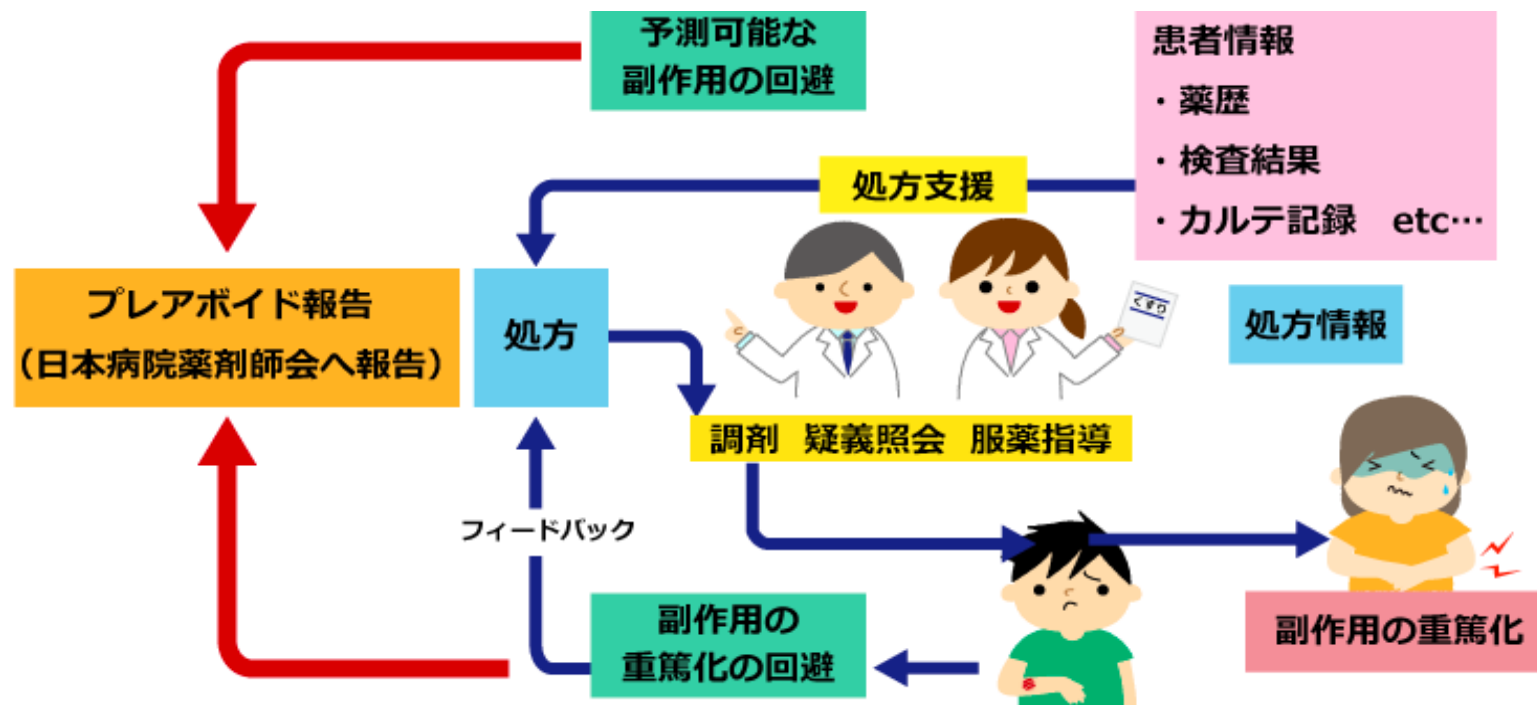
処方医に疑義照会を行い、A病院とB診療所から交付された処方せんの薬を合わせて一包化し整理。
これにより服用状況も改善。

出典)日本薬剤師会 在宅服薬支援マニュアルより抜粋



プレアボイド

- プレアボイドとは、Prevent and avoid the adverse drug reaction (薬による有害事象を防止・回避する)という言葉に基づいた造語です。





臨床検査値のデータの管理からクラビットの適切な投与量を推奨

年齢	80歳以上	性別	女性	体重	46	アレルギー・副作用歴	花粉(スギ、ヒノキ)
原疾患	膀胱炎 高血圧 骨粗鬆症						

過去に脳梗塞を患っていることから脳神経外科にて、血圧のコントロールをしながら脳梗塞の経過観察中。

介護認定は要介護2であるが、杖を使うことで一人で歩行することは可能、また意識レベルもはっきりしており服薬に際し、薬の管理は自身ですべて行っている。

この度、膀胱炎を発症したことから泌尿器科を受診しクラビット錠500mgが処方される。

薬学的介入前

クラビット錠500mg
1日1回朝食後 1回1錠

薬学的介入後

クラビット錠500mg
1日1回朝食後 1回1錠 初日
クラビット錠250mg
1日1回朝食後 1回1錠 2日目～

●併用薬:アムロジピンOD錠5mg、エパデールS900

脳神経外科にて定期的に採血を行っていたことから、薬歴には血液検査のデータを記載していた。

直近(泌尿器科受診の2週間前)のデータで、血清クレアチニン値(CRE)は1.18 mg/dLであった。

性別、年齢、体重、CREをCockcroft-Gaultの式に当てはめるとクレアチニンクリアランス(CCr)は24.85 mL/minと低値だった。泌尿器科の医師に疑義照会をし、CREおよびCCrを伝え、クラビット錠の減量を提案した。

明らかな腎機能の低下が見られることから、2日目以降のクラビット錠が250mgに減量になり、服用開始後の体調変化、膀胱炎による発痛の経過を注視する為、5日分処方から計3日分に変更となった。



この症例から学べること

膀胱炎でのクラビット錠500mgの処方によく見かけることであると考えられるが、当該患者は高齢であり、明らかな腎機能の低下が認められることが薬歴を通して判明した。また、泌尿器科では尿検査は実施していたが血液検査は実施していなかったようで、本人から腎機能の低下の申告はなかったとのこと。添付文書上、腎機能低下患者では高い血中濃度が持続するので、CCr:20mL/min以上50mL/min未満では初日500mgを1回、2日目以降250mgを1日に1回投与、を目安として、必要に応じて投与量を減じ、投与間隔をあけて投与することが望ましいと記載がある。高齢者の腎機能低下と服薬に関しては常に注意しなければならない。



薬局ヒヤリ・ハット事例

受付番号	発生年	発生月	発生曜日	発生時間帯	報告日
●●●●●●●●●●	2022	1月	木曜日	12:00～13:59	2022/01/27
事例の区分					
疑義照会や処方医への情報提供に関する事例					
患者情報			発見者		
1人 51歳 女性	平素から利用 複数の薬局を利用（他薬局が主）		薬剤師（鑑査者）	3年	
疑義照会や処方医への情報提供			発見場面		
行った			処方監査		
事例の内容			結果		
相互作用			薬剤変更（他成分への変更）		
仮に変更前の処方通りに服用した場合の患者への影響			判断した理由		
患者に健康被害が生じたと推測される			薬局で管理している情報（薬剤服用歴） 患者・家族から聴取した情報		
疑義照会や処方医への情報提供の手段					
電話					
処方された医薬品			変更になった医薬品		
販売名（厚労省コード／分類）	製造販売業者名		販売名（厚労省コード／分類）	製造販売業者名	
クラリスロマイシン錠200mg「トーフ」 (6149003F2011)	東和薬品		セフゾンカプセル100mg (6132013M2025)	L T L	
発生要因					
推定される医療機関側の要因		その他			
その他 プレアボイド		その他 プレアボイド			
事例の詳細					
足の化膿で皮膚科を受診した患者。クラリスロマイシン錠200mgが処方されていたが、薬歴のデータより、他院にて併用禁忌薬であるベルソムラを服用していることが判明。お薬手帳をお持ちでなかったため、今回の処方医にも伝えていなかったようなので問い合わせ。セフゾンカプセル100mgへ変更となった。					
推定される要因					
プレアボイド					



- ご清聴ありがとうございました